

わがまち歴史散歩

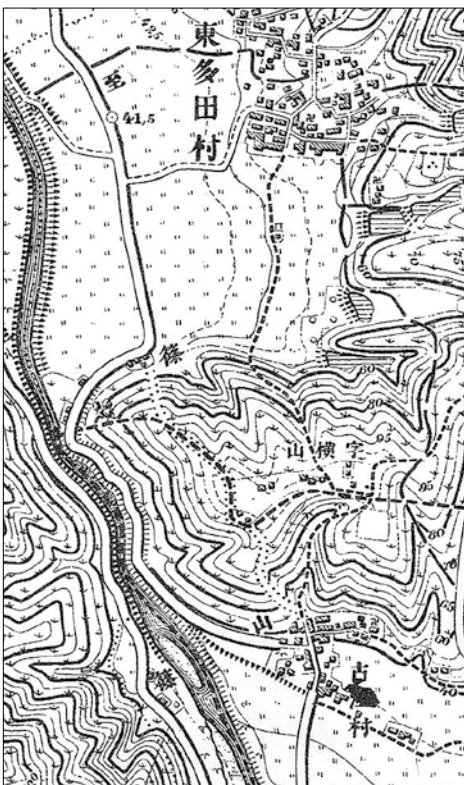
幕末～明治前期 交通事情の変化

陸軍仮製地図に見る 明治の姿

明治20(1887)年ごろ全国的な規模で作られた陸軍仮製地図は、日本において初めて厳密な陸地測量を基礎として作製された2万分の1地形図でした。

仮製地図が作製された時期は幕末からそう隔てられていなかったもので、しばしば江戸時代後期の集落や川・山・道路あるいは池などの姿を映し出しているといわれています。

しかし、よく検討してみると、明治になってから20年前後に至る変化も大きかったことが分かっています。試しに、古江村



陸軍仮製地図 「池田」から

から東多田村を結んでいた横山峠、それから鼓滝を横に見ながら走る道路について見てみましょう。左に掲げた図は「池田」の一部を切り取った仮製地図から取り出したものです。

天然の交通難所

地図には、最高地点の海拔が95メートル強の山塊が描かれ、その南裾(海拔40メートル前後)の集落(古江村)から曲線を描いて北に向かって山を登り、また下っていく道路が破線で描かれているのが見えています。これが「横山峠」です。南北の距離約500メートル、上り下りの高度差は約55メートルです。この坂が、江戸時代丹波方面と

池田・大阪を結ぶ大事な街道となっていたのです。また、妙見山へ参詣する人もここを通過していました。

言うまでもなく、この坂は人や馬が歩いて上り下りすることはできませんでした。しかし、それは大変なことでした。それでも、この急坂を使っていた理由は、山裾の西側を北から南に猪名川が波しぶきを上げる鼓滝の存在があったからです。古来ここは交通の難所だったのです。

ところが、明治になってから荷物を積んだ車(荷車など)や人力車が増えてくると、それらを引いて上り下りすることは、さらに大きな困難を伴うことがすぐに分かってきました。

明治11年10月30日付の『大阪日報』には「妙見へ参詣する者困難なるを、このほど大阪府庁に於て五詮議^{ごせんぎ}ありて、兵庫県へ紹介の上、地方税にて同山を開鑿^{かいさく}」との記事が掲載されています。「地方税」ということです。から大阪府の公金を使う工事です。それだけ府もこの工事を重視していたのでしょう。

地図を見てください。この地図はこの記事が出てから9年ぐ

らい後の姿を描いています。兩岸には広い道がつけられています。西側は、兵庫県の道ですが、その対岸は池田側の道で、これこそ大阪府によって切り開かれた道と見ていいでしょう。山越えの横山峠はすでに旧道となっている感があります。

あちこちで道の改修

明治10年代には、こうした道の改修が日本の各地で進められました。池田に関わっても、能勢郡の倉垣から吉野を経て加舎^{かや}に抜ける道(新道)、天王から福住^{ふくぢ}を経て篠山に至る道、それに池田・尼崎間の道が改修されました。また、猪名川に架かる橋も新設され、街道には人や荷物を運ぶ駅所が設けられ、人力車や荷車が増え、人々に便宜を与えていきます。

歴史は変化を知る学問です。道の開削はいかなる変動を社会にもたらしたのでしょうか。その変化を知ることのできる歴史資料にいつも注目し、考察していきたいものです。

(市史編纂委員会委員長・小田康徳)
問合 歴史民俗資料館

☎751・3019